

粘膜下層浸潤を伴う非乳頭部十二指腸癌の特徴についての検討

1、研究の目的と意義

近年、十二指腸非乳頭部腫瘍の報告が増えつつあり、大腸ポリープと同様に内視鏡的に発見・治療されることが多くなっています。また、家族性大腸腺腫症の患者さんでは十二指腸非乳頭部腫瘍を合併することが多く、多発しやすいとされています。

十二指腸非乳頭部腫瘍のうち早期癌は、最も浅い部分までの浸潤にとどまる粘膜内癌と、もう一段階深い部分まで浸潤した粘膜下層浸潤癌に分けられます。粘膜内癌であれば、内視鏡を用いた局所治療の対象となることが多いのですが、粘膜下層浸潤を伴う癌では、一定のリンパ節転移率（5-14%）が報告されているため、リンパ節郭清を伴う外科切除が望ましいと考えられています。一般に、十二指腸非乳頭部癌に対する外科切除では、臍頭十二指腸切除術が行われることが多く、侵襲の大きさが問題となります。このため、術前にどのくらい癌が浸潤しているか診断すること（深達度診断）が非常に重要といえます。しかしながら、術前の深達度診断は十分確立していません。

本研究では、当院で診療された粘膜下層浸潤を伴う十二指腸非乳頭部癌の患者さんを対象として、その特徴を明らかにすることを目的としています。

本研究により、粘膜下層浸潤癌を伴う十二指腸非乳頭部癌の特徴が明らかになれば、治療方針（内視鏡治療を中心とした局所治療かリンパ節郭清を伴う外科切除か）を判断するための指標が明らかになることが期待されます。

2、対象となる患者さん

2009年10月29日～2022年8月31日までに当院で十二指腸非乳頭部腫瘍に対して内視鏡治療または外科治療が行われた患者さんの中から、粘膜内癌または粘膜下層浸潤癌の患者さんを抽出し対象とします。

3、研究の方法

診療で得られた情報を電子カルテより収集し、粘膜下層浸潤癌の特徴を粘膜内癌と比較検討します。内視鏡治療や外科治療の切除検体から得られた病理パラフィンブロックを用いて、免疫染色を行い癌の粘液形質発現を明らかにします。

4、研究に用いる情報

電子カルテより以下の情報を収集し、解析します。

- 患者背景（年齢や性別）
- 病変の特徴
- 病理組織学的診断
- 治療の術式：内視鏡治療法、外科手術法
- 治療経過
- 術後長期経過

以下の免疫染色を行い、癌の粘液形質発現を評価します。

- 胃型マーカー：MUC5AC, MUC6、腸型マーカー：MUC2, CD10

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2023年3月31日

6、外部への情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 光学医療診療部 橋口慶一

8.お問い合わせ先

長崎大学病院 光学医療診療部 橋口慶一

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7481 FAX 095（819）7482

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）